

写真32 長窯遺跡全景



写真33 長廻遺跡奥壁上方



第42図 長廻遺跡出土遺物実測図 (S=1/3)

写真34 長廻遺跡出土遺物

7 節 その他の遺跡

川岡遺跡、ゴンワ遺跡は落盤の危険性が極めてたかく重機の侵入や写真測量が困難なところなので、詳細な調査を行うことができなかった。また、山屋遺跡は昭和30年代に発破で採石したところであるため写真撮影だけにとどめた。

川岡遺跡

来待川東側の標高60m前後の丘陵に存在する石切場で、採石跡は尾根から少し下がった斜面に10ヶ所あまり残っている。その大半は東南斜面に集中し、この斜面には切り出した石を運び出す時に使ったと思われる道が採石跡まで続いており、規模は小さいが小三才谷で見られた石垣を作っている。採石跡は「L」字形を呈するものが多く、キリヌキ技法によって石を採石しているが、一つの壁面のみにマサカリの痕跡が残っていることから道具が細分化していない段階のものと思われ、マサカリの痕跡は線の細いものや、斜方向の幅が狭いものなど、規格性に欠けている。

ゴンワ遺跡

石宮神社裏手の丘陵に存在している石切場で、来待石の石切場としては最も西側に位置するものである。採石跡は丘陵の尾根と斜面上方部に数ヶ所があるが、尾根上のものは、尾根と直交する形に採石しており、壁面には規格的で整美なマサカリの痕跡が残っている。この採石場は最近まで操業していたものである。

山屋遺跡

来待川西側の民家のわきにある採石場で、昭和30年代に河川改修用の石材を供給するため発破で採石した所で、現在は祠がある小山が一部残っているにすぎない。



第43図 川岡遺跡地形測量図 (S=1/800)



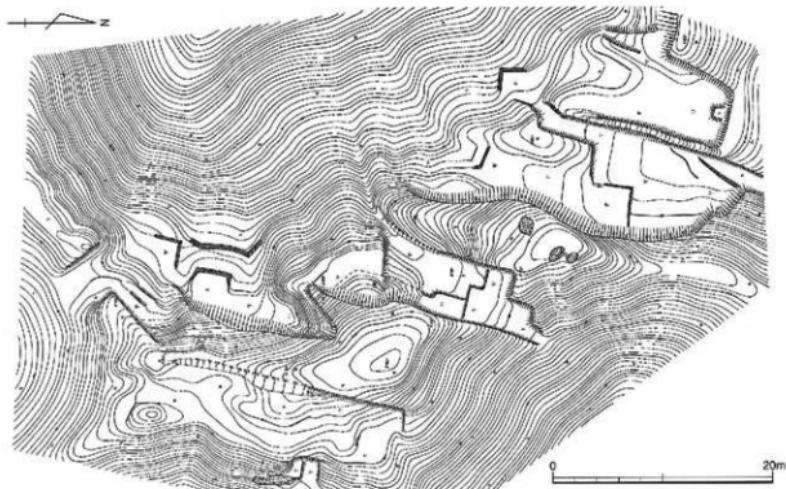
写真35 川岡遺跡



写真36 山屋遺跡



写真37 ゴンワ遺跡



第44図 ゴンワ遺跡地形測量図 (S=1/800)

第4章 まとめ

今回の調査は作業員の安全第一を考え測量・実測を中心に行なったため充分なものではなかったが、いくつかの採石方法を確認する等それなりの成果があった。

穴道町では石工から聞き取り調査を行なっているが、それによると大正時代に完成したキリヌキ技法と呼ばれる方法がもっとも新しい人力による採石技法で、昭和30年代に発破が用いられ、昭和40年代から機械を導入されたことが確認されている。この認識にたって今回調査した採石場について整理、検討を行うこととする。

人力による採石方法は石の節理面を利用して上方から縦方向に矢を入れて石を採石しているもの〔I〕とキリヌキ技法と呼ばれる幅10cmあまりの溝を縦、横方向にマサカリで掘り、底の横から矢を入れて石を切り離す方法〔II〕とがある。これらの採石場について平面形、マサカリの痕跡について検討してみたい。

縦割技法〔I〕

この方法で石を採石している第1三反田採石跡では平面形が鍵形〔A〕を呈し、上方部の節理線にそって矢をいれているもの〔I-1〕と上部に溝を掘ってから矢をいれているもの〔I-2〕とがある。この採石跡では縦方向と横方向の節理面を利用して平面形が鍵形をなし、上から削って石を採石している関係で床面は自然剥離面がそのまま残っており、V字形に凹んでいるところや平坦な斜面となっているところがある。溝を入れるについた道具の痕跡は斜方向の短く細いもの〔a〕で大正年間に完成されたキリヌキ技法の痕跡とは明らかに異なるものである。

横割技法（キリヌキ技法）〔II〕

この方法で石を採石している遺跡としては、小三才谷、勝負廻Ⅱ、イヤ谷、大畑、長廻等があり、平面形としては「L」字形の二つの壁面からなるもの〔B〕と「コ」の字形の三つの壁面からなるもの〔C〕がある。

平面形が「L」字形であるB類は、一つの方向のみにキリヌキ溝を入れ、他の方向は自然の節理面を利用し底に矢を入れて採石しているもので、小三才谷、勝負廻Ⅱ、イヤ谷東でみられる。マサカリの痕跡を見てみると小三才谷では縦方向の細い線〔b〕で壁面の一部に付いていたが、勝負廻Ⅱ、イヤ谷東では壁の全面にわたって羽状の斜線〔c〕や不規則な斜線〔d〕の痕跡が残っていた。b類は明らかに定形化したキリヌキ技法の痕跡とは異なるものであるが、c・d類はやや近い要素を持っている。大正年間に定形化したキリヌキ技法は柄の長さ、刃の角度の違う五つのマサカリを使って溝を掘っているが、c・d類は道具が細分化する以前の形態を示しているものと思われ、マサカ

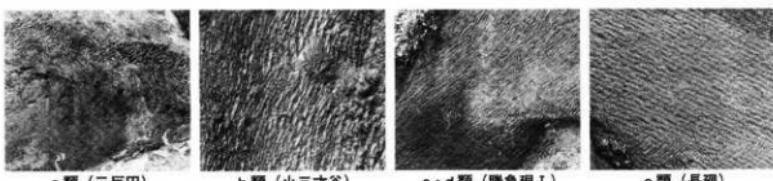


写真38 工具の痕跡分類

リの痕跡が壁面の一部しかなかった小三才谷では主に自然の節理面を利用し一部にキリヌキ技法を用いた可能性があり、やや古い要素を持っている。また、小三才谷や勝負廻Ⅱでは壁の前方に石垣を伴う平坦地を持っていたが、特に小三才谷では、石垣が四段にわたって廻らしており、石を運び出す道がきれいに残っていた。

C類はいわゆる定形化した採石方法で大烟、長廻が含まれる。長廻の平面形は前方がやや開いているが、大烟はきれいな「コ」の字形を呈している。マサカリの痕跡は三つの壁面の全面にわたって規則的に斜め方向〔e〕に付いており、奥壁にはイシアゲの痕跡が數本残っている。これらはB類には見られなかった特徴で、最後のイシアゲを行った時の床面が残っていた第Ⅰ大烟採石跡ではまず縦に4本のキリヌキ溝をいれ、採取したい石の大きさに横方向のキリヌキ溝を掘り、手前から矢を入れてイシアゲを行い、手前から奥壁に向かって企画的に採石していた。切り出した石の大きさは縦140cm～210cm、横160cm～220cm、厚み50cm～80cmの長方体である。

発破による採石〔Ⅲ〕

この採石は昭和30年代に河川改修用の石材が不足したため来待石を短時間で採石する方法とし取り入られたもので、自動車の運搬が楽な平野部に近い所が多く、ほとんどが古い石切場を利用していている。その痕跡が認められたのは山屋、大烟、長廻の採石場である。発破による採石は、まず径5cm、長さ1mあまりの細い穴を岩盤に開け、そこに黒色火薬を詰めてから爆破して岩塊を落し、河川改修用の石材に加工して運び出していたものである。

機械による採石方法〔Ⅳ〕

この方法は現在でも行っているもので長廻でみられた。ここでは土地所有者が数年前まで操業していたところで、古い石切場を利用して下方部を機械によって幅0.5m、長さ4.5m、厚み1.0mあまりの板状の石を切り出している。採石はチェンソー状のもので上部の縦横を切ってゲンノウで叩いて床から切り離していた。

このように今回調査した採石場は大きく四つの採石方法があり、I類、II類はそれぞれ二つに細分できた。これらの時期については、完成された採石方法であるII-Cを大正年間以降とし、キリヌキ技法の未完成の段階であるII-Bは、勝負廻Ⅱから出土した鋸先が明治時代まで使用されていたことや、勝負廻Ⅱ、小三才谷に生えていた杉の年輪等から考えて明治時代ころのものと思われる。また、I類はキリヌキ技法が出現する前の採石方法と考えられ時期的には江戸時代まで遡る可能性がある。発破のIII類は昭和30年代以降、機械によるIV類は昭和40年代以降のものである。

技 法		平 面 形	規 模	マサカリ等の痕跡	廻 跡 名	時 期
I 縦 削	1溝のないもの	A	鍵 形	小規模	無	第Ⅰ二反田〔ⅠAa〕 江戸～明治
	2溝を持つもの	A	〃	〃	a 斜方向の縦線	〃
II 横 削 (キリヌキ技法)	B I.字形	中規模	c 羽状の斜線	b 縦方向の縦線	小三才谷〔ⅡBb〕	明治
				d 不規則な斜線	勝負廻Ⅱ〔ⅡBcd〕	
III 破 壊	D 不定形	人規模	f 発破の痕跡	c 羽状の斜線	イヤ谷東〔ⅡBed〕	大正～昭和
				e 規則的な斜線	第Ⅰ大烟〔ⅡCe〕	
IV 切 収	E 不定形 (シルエット)	中規模	g 切収機の痕跡	f 不規則な斜線	長廻〔ⅣCe〕	昭和40年代～
				g 切収機の痕跡	山屋〔ⅣDf〕	
					大烟〔ⅣDf〕	
					長廻〔ⅣEg〕	

報告書抄録

ふりがな	まちいしいいむばいせぐん						
書名	来待石石切場遺跡群						
副書名							
卷次							
シリーズ名	中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	1						
編集者名	川原 和人						
編集機関	島根県教育庁文化財課 埋蔵文化財調査センター						
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 電0852-36-8608						
発行年月日	西暦1998年3月31日						
所収遺跡	所在地	市町村 遺跡番号	コード		調査期間	面積(m ²)	調査原因
			北緯	東経			
イヤ谷 遺跡	島根県八束郡宍道町東来待	323071	35° 24' 31"	132° 57' 33"	1997.09.02~	400	中国横断道
大畑 遺跡	島根県八束郡宍道町東来待	323071	35° 24' 32"	132° 57' 23"	1997.12.25	200	建設に伴う
小三才谷 遺跡	島根県八束郡宍道町東来待	323071	35° 24' 35"	132° 57' 18"		600	事前調査
川岡 遺跡	島根県八束郡宍道町東来待	323071	35° 24' 30"	132° 57' 15"		400	
山屋 遺跡	島根県八束郡宍道町西来待	323071	35° 24' 25"	132° 56' 50"		150	
勝負廻Ⅱ 遺跡	島根県八束郡宍道町西来待	323071	35° 24' 24"	132° 56' 45"		100	
長廻 遺跡	島根県八束郡宍道町西来待	323071	35° 24' 20"	132° 56' 40"		400	
三反田 遺跡	島根県八束郡宍道町西来待	323071	35° 24' 18"	132° 56' 30"		550	
ゴンワ 遺跡	島根県八束郡宍道町西来待	323071	35° 24' 11"	132° 56' 56"		150	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物		特記事項	
イヤ谷 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡	小矢1			
大畑 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡				
小三才谷 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡				
川岡 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡				
山屋 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡				
勝負廻Ⅱ 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡	銀先・鎌・櫛、各1			
長廻 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡	鉄製品2			
三反田 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡	鉄製品1			
ゴンワ 遺跡	石切場	近世以降	採石場跡				

来待石石切場遺跡群

中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 1

1998年3月

発行：島根県教育委員会
日本道路公団

編集：島根県埋蔵文化財調査センター
(〒690-0131 島根県松江市打出町33)
TEL 0852-36-6608

印刷：株式会社 谷川印刷